

## ご挨拶

友永 植 (別府大学学長)



学長の友永でございます。別府大学大学院講演会・シンポジウム「読むという営み」の開催に当たり、ひと言ご挨拶させていただきます。

基調講演の浅野則子先生はじめ各分野のパネラーの諸先生方には、ご登壇いただき厚く感謝申し上げます。また、ご参加いただきましたフロアの皆さまにも、厚くお礼を申し上げます。

さて、私たちが生きる現代社会は、情報があふれ、また変化が激しい時代です。このような時代を生き抜くには、深い洞察力と的確な判断力が求められますが、その基礎となるのが、まさに「読む」という営みだと思います。本学の建学の精神「真理はわれらを自由にする」は、「科学としての学問・研究」そのものの意義とあり方を指し示すものでありますが、この真理の追究もまた「読む」という営みに始まります。

本学では、建学の精神に則り、学生諸君には単に知識を蓄積するだけでなく、自ら学び、自ら考え、そして自ら行動できる人材へと成長してくれることを望んでいます。そのためには、深い洞察力、つまり、現象の表面的な解釈だけでなく、その背後にある思惑や因果の構造を深く理解する能力を養うことが大切です。

今回のシンポジウムでは、文学、歴史学、心理学、生物学など、様々な分野の専門家にご講演いただき、それぞれの視点から「読む」という営みの意義を深く掘り下げていただきます。大学院生や学生諸君にとって、研究・学習のきっかけを獲得する貴重な機会となることを願っています。

今後、AIの発展により、情報収集やデータ分析はますます容易になっていくでしょう。しかし、それらの情報を正しく読み解くためには、人間ならではの読解力こそが重要だと思います。本シンポジウムが先生方にとって「学問」の本来の姿をいま一度顧みる機会となり、また学際研究の意義を確認する場ともなることを期待しています。本日は、どうぞよろしくお願いたします。